

テクニカルレビューへの対応(案)

意見NO	意見内容	対応案
1	① 3 用語の定義 のd) 2) に出てくる「設計肉厚」の定義が良く判らない。 定義した方が良いと思うが、如何か。	設計肉厚を定義する。設計肉厚(容器製造者が設計において使用する肉厚をいい、規則第8条第1項第15号の許容傷深さ(DC)及び規則第8条第3項第4号ホに規定する許容傷深さ(DD)をそれぞれ含む。)を規定。
2	② 3 用語の定義 のg) 3) は、本70MPa の規定では不要ではないか。 本文に於いて、荷室用とそれ以外を分けた容器の型式試験方法等の記述がない事から斯様に思料するものです。	17.1に荷室用容器に係る試験の免除を規定しており、荷室用容器の規定は必要なため、現行案のとおりとします。
3	③ 4.4 規定材料 の「容器の耐圧部 には…」は「容器の耐圧部 は…」で、「に」はなくて良いと思うが、如何。	ご指摘のとおりです。修正します。
4	④ 17.4 環境暴露試験の方法 のc)2)、「b) 2) からb) 4) の規定 は 環境暴露試験に準用する」は「b) 2) からb) 4) の規定 を 環境暴露試験に準用する」の方が判り易いと思うが、如何。 同様に、d) も「は」を「を」にする方が判り易いと思うが。	一般的に前の規定を準用する場合、現行案のような使い方と考えます。よって現行通りとします。
5	⑤ 17.4 環境暴露試験の方法 のc)4) は、「3-2) ~ 3-4) の操作を繰り返す。」ではないか。	c)4)は環境液を再度滴下することを規定しており、現行案のとおりで問題有りません。しかしながら、5)において準用した3) 3-1)の圧力が間違っているため、5)を以下のとおり修正します。 5)容器は、容器表面温度が85°C±5°Cとなる雰囲気において次に定める試験を行う。 5-1) 容器に気相部が残らないように液体を充滿させた後、2 MPa以下の圧力から最高充てん圧力の125 %以上の圧力まで加圧し、加圧した状態で60秒間以上保持する。 5-2) 2 MPa以下の圧力まで減圧する。 5-3) 5-1)及び5-2)の操作を1サイクルとし、2 820回(低充てんサイクル自動車に装置される容器にあつては1 375回)以上繰り返す。 5-4) 1サイクルは66秒以下とならないこと。
6	⑥ 18.2 試験の方法 のc) も、④ と同様「 25.2 の規定 を 水素ガスサイクル試験に準用する」で如何か。	4の回答に同じ。

7	◎「組試験における「引張試験」「常温圧力サイクル試験」及び「破壊試験」に付いては、不合格時の再試験措置を入れた方が良いと思うが、如何。	70MPa水素自動車容器は、まだ製造数も少なく、慎重を期すため、再試験の措置は採用しない。CNG自動車の基準も未採用。
---	---	---